

### 3. 患者適応

松久充子  
 さくら眼科

#### ●はじめに

コンタクトレンズ (CL) が広く普及しておよそ 50 年が経過した。この間に素材、デザイン、ケア用品はより安全で快適なものに改良され、CL 装用者は 1,500 万人、国民の 8 人に 1 人となり、幅広い年齢層のさまざまな屈折疾患を有する者にとって、なくてはならない屈折矯正手段の一つとなった。しかし、CL がどんなに進歩しても角膜に直接接触する異物であることは変わらないので、間違った使い方をすれば眼障害が発症する。CL 眼障害は軽微なものから視力障害に至る重篤なものまで、装用者の増加とともに増えている。CL 眼障害を発症させないためには、処方する際に患者適応を見きわめ、新規処方以後も継続して定期検査を行って適切な CL 装用となるよう管理することが重要である。

#### ●適応疾患

屈折異常 (とくに強度の近視・遠視・乱視・老視や無水晶体眼・不同視)・円錐角膜などに処方する。

かつては乱視があるとハードコンタクトレンズ (HCL) を、老視年齢になると CL をやめて眼鏡のみの生活や、CL の上に老眼鏡をかけるようにすすめていた。しかし、現在では乱視用・老視用ともに優れたソフトコンタクトレンズ (SCL)・HCL が普及して、快適な矯正視力が得られるようになってきている。

#### ●適応条件

眼鏡を所持していない患者に CL だけを導入すると、無理をして装用するために眼障害をきたしやすい。必ず適切な眼鏡を所持していることを確認し、所持していなければ眼鏡を先に処方する。また、CL 矯正にて良好な視力を得ることができることも必要条件である。

#### ●適応年齢

他の手段では良好な視力矯正が困難で、CL によってのみ良好な視力が得られる、あるいは視機能の発達が期

待できる場合は、年齢を問わず CL 処方可能である。先天白内障術後無水晶体眼への SCL は最年少への処方例であり、白内障術後無水晶体眼に連続装用 SCL を処方して、外来にて定期的な CL 管理をする例が最高齢者への処方例であろう。

しかし、眼鏡で視力矯正が可能であっても、運動・仕事・整容上の理由で CL を併用したいという希望者がほとんどである。この場合の適応は適切な管理ができる年齢、原則として中学生以上から 80 代半ばまでと考える (未成年者には保護者の同伴による同意を求める)。まれに小学生でもバレエの発表会のようなオケージョナルユーズの希望では、保護者同席で装用指導をしてから処方する。保護者が CL 装用の手伝いをするのはよいが、自分で CL をはずすことができなければ処方しない。

#### ●禁忌

・度数：カラー CL を除き、 $\pm 0.75D$  未満の屈折異常では CL は不要である。

・前眼部炎症疾患や免疫不全を有するもの：重症アレルギー性結膜炎、巨大乳頭結膜炎、感染性眼疾患、繰り返す炎症性眼疾患を有する場合、CL は処方しない。

・アレルギー性結膜炎：すべての症例で眼瞼を翻転して瞼結膜を観察する。アレルギー性結膜炎が発症していれば処方は中止する。軽度の濾胞があって自覚症状がない場合 (図 1) は、掻痒・充血・白色粘性眼脂 (図 2)・CL が上方にずれやすいなどの症状が出現した場合は装用を中止して受診するように指導する。CL 装用時にはアレルギー反応が誘発されやすい。また、蛋白質などの汚れが付着した CL、固めの SCL やフィッティングの合っていない CL などによる機械的刺激によって巨大乳頭結膜炎 (図 3) が発症する。ケア用品 (とくに多目的溶剤) によってアレルギー性結膜炎や角膜炎が発症する場合もある。このため、アレルギー性結膜炎体質があれば、1 日使い捨て CL が望ましい。頻回交換 SCL や HCL では、レンズケアの徹底と、自覚症状によって装用時間の短縮



図1 軽度のアレルギー性結膜炎  
自覚症状はないが軽度の充血と結膜濾胞がみられる。



図2 白色粘性眼脂



図3 巨大乳頭結膜炎

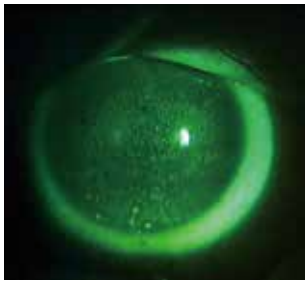


図4 CL禁忌のドライアイ



図5 治療しながらCL装用可能なこともあるドライアイ

や中止を判断できる者にのみ処方する。従来型SCLは酸素透過性が低く、長期装用による汚れによってさまざまな眼障害が発症しやすいので原則として処方しない。

・ドライアイ：CLは適切な量の涙液が適切に交換される結膜嚢に浮かんでいる存在である。涙液量の不足やCL下の涙液交換が不十分であれば、必ず角膜障害が発症する。さらに、CLを装用することはドライアイを誘発する。したがって、重度ドライアイ(図4)へのCL処方禁忌である。また、睡眠導入剤や抗アレルギー薬・抗ヒスタミン薬などの服薬中にはドライアイ状態になることがあるので注意を要する。軽度のドライアイの

場合(図5)は、人口涙液点眼、ヒアルロン酸点眼、ジクアソルナトリウム点眼、レバミピド点眼などを併用しながら、原則として1日使い捨てSCL(なるべくシリコンハイドロゲル素材)を処方する。

・CL不耐症：CLを装用するだけで疼痛や異物感が強く我慢できない人には処方しない。また、ドライアイにもかかわらずCL装用を無理に続けていると、CL不耐性の状態になることがある。速やかにCLを中止する。

・CL装用に適さない環境にいる人：乾燥する環境にいる人や、ゴミやほこりの入りやすい仕事の人には処方しない。

・神経質な性格の人、CLに興味がない人、CLを適切に取り扱えない、または管理できない人：CL装用期間や時間を守れない、あるいは不適切なケアが原因でCL障害を繰り返す人には、CLを処方しない。

●おわりに

CLは優れた屈折矯正機器であるが、適応や使用方法を誤ると重症の眼障害を発症し視力障害に至る。医師は処方する際や定期検査のたびに啓発をすることと、定期検査では小さな異常も見逃さない観察眼をもつことが大切である。

**世界初<sup>1)</sup> シリコンハイドロゲル素材<sup>12)</sup>の1日使い捨てコンタクトレンズ**



**ワンデーアキュビュー® トゥルーアイ®**

目の健康に、大切な4つの要素をひとつに

 <b>より高い酸素透過性<sup>13,4)</sup></b>	 <b>乾燥感を軽減</b>
 <b>汚染リスクを軽減</b>	 <b>紫外線カット</b>

詳しい製品情報については <http://acuvue.jnj.co.jp> はこちらをご覧ください。

※装用感には個人差があります。◎UV吸収剤を配合したコンタクトレンズは、UV吸収サングラスなどの代わりにはなりません。  
\*1 Johnson & Johnson社は世界で初めてシリコンハイドロゲル素材を1日使い捨てタイプに採用しました。Johnson & Johnson関連会社により世界68カ国ですでに発売されています。(2013年1月時点) \*2 レンズ素材名:「プリアルコンA」 \*3 弊社従来製品(HEMAベース素材)との比較 \*4 酸素透過率(Dk/L値):測定条件35°C(-3,00Dの場合)Polarographic method, boundary and edge corrected,118×10<sup>-9</sup>(cm·mL·O<sub>2</sub>/sec·mmHg)  
◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。眼科医による検査・処方をお願いします。特に異常を感じなくても定期検査は必ず受けるようご指導ください。◎患者さんがコンタクトレンズを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、取扱方法を守り、正しく使用するようご指導ください。

Johnson & Johnson  
JOHNSON & JOHNSON K.K.  
www.jnj.com

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 販売名:ワンデーアキュビュートゥルーアイ 承認番号:22200BZX00226000 登録商標 ©J&J KK 2014